

腹部超音波検査

腹部超音波検査とは？

腹部超音波検査（腹部エコー）とは腹部に超音波をあてて腹腔内の臓器からかえってくるエコーを受信することでお腹の中を映像化します。生理検査室では2台の機械を使用し2つのお部屋で検査を行っています。痛みもなく安全な検査で、肝臓・胆嚢・胆管・膵臓・腎臓・脾臓などの臓器の状態を観察することができます。

実際の検査は？

検査時間は15～20分程度です。所見の程度により多少は異なります。

- ② 腹部エコー室に入ります。
- ② 上半身は胸の下までまくり、ズボン・スカートは腰骨の辺りまで下げて、ベッドに仰向けになります。ゼリーが付かないように、シャツとズボン・スカートに紙タオルを挟み込みます。
- ③ 両腕はバンザイの状態にするか、胸の上の方におきます。
- ④ プロブ（超音波を発信・受信する機械に）にゼリーを塗布し腹部にプロブをあてて上下左右に移動させて臓器の状態を観察・記録します。
- ⑤ 検査終了後はゼリーを拭き取るタオルでお腹を拭いていただきます。

ご協力をお願いします

- ① 左右の仰臥位、肘膝位、坐位などの体位変換を行ってまいります。
- ② 検査は、見やすい状態を作るために基本的に腹式呼吸（お腹を膨らますような呼吸）で息を止めた状態で観察することが多いため呼吸の調節をお願いします。



ご注意願います

- ① 食事をしてしまうと胆嚢内部の胆汁が排泄されてしまい、壁が肥厚し内腔の観察が行えず、ポリープや小結石があっても描出できなくなりますので朝御飯は食べずに検査を行います。
- ② 内視鏡検査の後では、胃や腸内の残存空気が超音波検査に悪影響を及ぼし、胃透視検査の後では胃内のバリウムによる陰影のため脾臓が全く描出できなくなるために、これらの検査がある場合は超音波検査を先に行います。

